

タイヤ整備事故ゼロを目指して／小野谷機工(株)



川崎 雅彦部長 (販売促進部)



牧野 智将部長 (商品開発部)



小野谷機工(株) 宇田 公郎常務

宇田 JATMAによる事故調査報告の内訳を見ますと、空気充填時の安全ケージの不使用中で被災するケースが非常に多いようです。未設置が約半数、安全ケージを導入していても三分の二が使用していないのが実態だとも指摘されています。安全と作業効率の両立を求める中で、作業の基本がなかなか徹底されていないということでしょうか。やはり作業される方や事業主の方々の安全に対する意識がまだ不足しているのかもしれない。

ただ生産財が主流の販売店さんでは人手不足の状況が顕著となってきています。そのため経験の浅い新人の方、あるいはシニアの方、最近では女性の活用も

言われるようになって、人材が多様化する側面が見られるようになってきましたが、その一方でベテランの方々に熟練の技術が求められる作業への負担が増してきています。事故はキャリアの少ない方だけに起きているのではなく、ベテランの方でも起きています。つまり経験の差ではないのですね。事業所全体で安全意識を持って取り組み、基本の動作に忠実であることが求められていると思います。

現在、タイヤメーカー各社で生産財タイヤの技能コンテストが開催されていますが、このような取り組みが繰り返し行われることで、意識が働き身体に染み付いてくるのではないのでしょうか。

事故の報告があると、当社でも独自にその検証を行っています。原因がどこにあるのか。たとえばメンテナンス、あるいは使い方の作業の方が取り扱い説明書通りに使っておらず、自身のこだわりで独自の使い方をされているケースもあるようなのです。それが事故の遠因になっているケースも中にはあります。

川崎 わたくしたちメーカーとして使わせた導入されても使われていないということは大きな課題だと捉えています。いかに使いやすいものにしていくか。それが機器メーカーの役割だと考え、商品の改善や新商品の開発強化に取り組み続けているところです。

宇田 事故の未然防止は当社の使命です。そのため当社ができることはどういふことなのか。そういう意味において、お客様の声、現場の声を常に聞くことが大変重要だと思います。お客様の困りごと、こうして欲しいという改善へのニーズ等を吸い上げて、企画・開発にフィードバックする。

当社には製造部に品質管理班があり、そこに改善要求などの情報すべてを集めています。そこからたとえば製造の問題であれば製造部へ、商品の改善については商品企画部へという具合に、情報を各専門部署へと

つなぎ、その対策を図っていく。すべての情報を共有し、全社的に検討する品質向上委員会、商品開発委員会を毎月定例的に開催しており、その委員会の下にも社内横断型のワーキンググループで具体的事象について検討し対策を打つということも行っています。

川崎 当社の強みの一つには商品のラインアップの豊富さがあると思います。お客様の使い勝手、お客様の作業の仕方にベストマッチできる機種を豊富に揃えることができるのは、メーカーならではの自負するものです。

川崎 わたくしたちメーカーとして使わせた導入されても使われていないということは大きな課題だと捉えています。いかに使いやすいものにしていくか。それが機器メーカーの役割だと考え、商品の改善や新商品の開発強化に取り組み続けているところです。

このような取り組みを4年ほど前から強化してきており、その成果が徐々に現れています。先日、当社とお取引いただいている企業様から最優秀賞を受賞したのですが、その最優秀賞の該当会社が出たこと自体が5年ぶりだそうです。大変な名誉で、お客様のニーズに合った商品を提供し、商品の品質にも高い評価をいただいたことが最優秀賞受賞に繋がったと考えます。

牧野 われわれでは気が付かなかつたことが、お客様の声によって気付かされたということがあります。商品開発を行う側としては、お客様の声をお聞きして、常に改良に取り組み。一方で改良がむずかしいのであれば、違うアプローチの仕方から課題の解決を図る。このようなやり方で開発を行っています。

宇田 現場は常に変化しています。お客様の困りごとをはじめ、そういう変化をわれわれはいち早くキャッチし、物づくりに活かす。チャンスをにします。変革することで持続的に成長していくという事業戦略を推進していく考えです。

好調に推移しています。ポタン操作により自動でタイヤ交換作業するもので軽労化と省人化に貢献する機器であり、作業品質の安定化も実現します。

ただそれだけではいいのではありません。あるユーザーの整備責任者から指摘いただいたのですが、「この機械を使えば人がタイヤに触れないからより安全ですね」と。車両管理を担当する方、作業を実際に行う方々からすると至極当然の考え方なのかもしれません。

人手不足の問題解決への糸口として、軽労化と省人化をテーマに開発した商品ですが、それを突き詰める「安全」に行き着くということになるのですね。

開発の立場から言えば、お客様の声を一つひとつ開発に活かし、使いやすい商品をご提供していくということを継続していく考えです。なぜこれが必要なのかということをしつかりとアピールすることができるような商品を開発し、それによってお客様の安全・安心を実現したいと思っています。

使いやすさの追求がメーカーの使命

作業品質の向上を図る